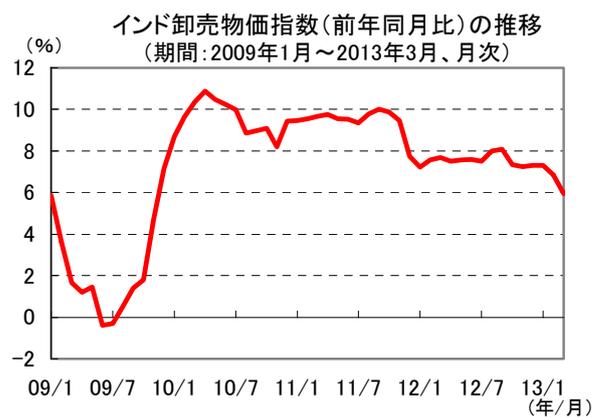
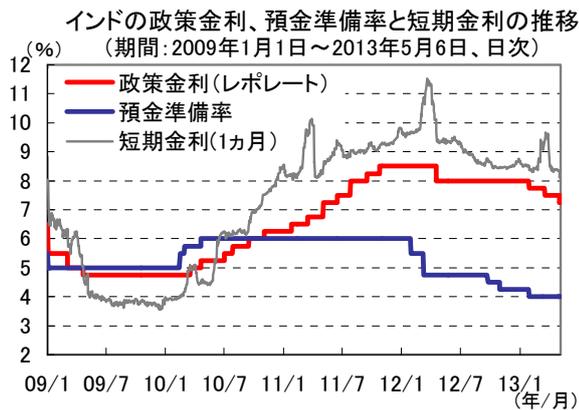


### 5月3日発表のインドの政策金利の引き下げについて

インド準備銀行(中央銀行)は5月3日に開催された金融政策決定会合で、政策金利であるレポレート(中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利)を0.25%引き下げ、年率7.25%とすることを決定し即日実施しました。事前の市場予想と概ね一致する結果となりました。1月および3月の利下げに続き、3会合連続の利下げとなります。

同中銀は今回の決定の背景として、減速を続ける経済成長とインフレ見通しを挙げています。2012年10-12月期の実質GDP(国内総生産)は前年同期比+4.5%と、2011年1-3月期の同+9.2%からはほぼ半分程度水準へ低下しています。同中銀では、今年度上半期の経済活動は弱い状態が続き、下半期から緩やかに回復すると予想しています。インフレについては、卸売物価指数は同中銀の許容上限近くまで低下しているものの、食料品価格への上昇圧力と供給面での制約には注意が必要としています。

5月7日の外国為替市場(東京時間9時頃)では、利下げ前日の2日との比較で、インドルピーは対米ドルで0.5%程度のルピー安、対円で1.5%程度のルピー高となっています。



(出所)Bloomberg データより野村アセットマネジメント作成

以上

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しします投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。